

連載

株式評論家 山本伸一の

# 兜町スタンダード



■ 次期予想「非開示」をどう見るか

いよいよ決算発表シーズンも開示ピークを迎える。今回の本決算となる前3月期業績には「東日本大震災」による「直接的な影響」が織り込まれてくるうえ、今3月期予想には電力不足、部品調達苦戦、消費マインドの低迷など「間接的な影響」も加わってくるため、開示後の株価の反応も様々だ。

なかでも、2月期決算企業にも見られた次期予想の「非開示」が、より業績を見極め難くしているのは間違いない。本来ならば、本決算においては次期予想の業績変化率や強気、弱気観測が実態評価や成長性の判断基準となっていたが、今回に限っては通じなくなっている。

現状では予想「非開示」が『通例』となっている証券や銀行など金融関連と同様の判断を用いるしかない。要するに予想よりも集計、開示された内容をそのまま受け取ることだ。決算短信の予想欄には、次四半期業績開示など、今後の業績発表において予想開示を匂わせるような記述が見られているが、まだまだ「業績不透明感の残る状況」はしばらく続くのではないだろうか。

そこで弊社では、決算シーズン後の展開を乗り切るべく、業績信頼度の高い銘柄に着目する「厳選5銘柄付き緊急市況レポート」を発売することにした。厳選銘柄やレポートに興味を持たれた方は、弊社に直接問い合わせほしい。